2019年度　卒業論文

**労働市場の二重構造と賃金構造**

2020年1月24日

慶應義塾大学　環境情報学部

71542760

川崎美波

**要約**

近年の日本では、OECD加盟国の中でも大きな所得格差が存在している。この所得格差は単一の要因で説明をすることは難しく、男女差や取り巻く環境など様々な要因が複雑に存在している。

　本稿では、所得格差について検討するべく、“労働市場の二重構造”という概念を用いて労働者の賃金の決定要因を検討していく。本稿の目的は、労働市場の二重構造、及びそれぞれの賃金構造を明らかにすることである。そのために、総務省統計局による就業構造基本調査の1992年から2007年にかけて5年間隔で4年分を用いて、労働市場の二重構造と賃金構造について検討、及び実証分析を行った。そして、年代ごとの比較や時代背景を重ねた検討を行っている。

　本研究では、一次部門と二次部門の賃金格差の背景として、企業規模、教育年数（学歴）が大きな要因だと考える。その背景となるものが、1993年のバブル崩壊と、1990年代の大学進学率の増加、高校卒業者の求人数減少である。まず、1993年のバブル崩壊を機に大企業に就業する労働者の賃金が大きくなった一方で、小企業に就業する労働者の賃金は落ち込んだ。また、1990年代の大学進学率の増加と高校卒業者の求人数減少により教育年数（学歴）の低い者の大企業への就職が難しくなった。二つの背景から、教育年数が長く大企業で就業する一次部門の労働者と、教育年数が短く中小企業で就業する二次部門の労働者では大きな賃金格差が発生しており、企業規模、教育年数（学歴）が所得格差の大きな要因と本研究では結論づけた。

**キーワード**

労働市場の二重構造、賃金構造、所得格差、実証分析

目次

1：はじめに 4

1.1 問題意識 4

1.2 先行研究検討 5

1.3 リサーチクエスチョン 6

1.4 本稿の意義 6

1.5 本稿の流れ 7

2：データ・モデルの説明 7

2.1 データの説明 7

2.1.1 データの説明 7

2.1.2 データの標本属性 7

3：「右上がりグループ」の検証 8

3.1「右上がりグループ」の算出方法 8

3.2 「右上がりグループ」の推移と検証 8

4：労働市場の二重構造と賃金構造 9

4.1 賃金構造の実証分析概要 9

4.2 一次部門と二次部門の選定 9

4.3 モデルの説明 9

4.4 推計結果 10

4.5 考察 12

5：結論 15

6：参考文献 15

# **1：はじめに**

## **1.1 問題意識**

　近年、非正規労働者の増加や働き方の多様化など労働市場は様々な変化を迎えている。その一方で、厚生労働省の平成24年版厚生労働白書によると、相対的貧困率や所得分配の不平等さを示すジニ係数がOECD加盟国の平均よりも高い水準となっており所得格差が顕在化していること、また就業率の男女差や男女間賃金格差が大きいことなど経済格差の問題が顕著になっている。（厚生労働省 2012）

　所得格差について考察するべく、労働者の賃金がどのように決定されていくのかを検討していくために労働市場が第一次（primary）労働市場（以下、一次部門）と第二次（secondary）労働市場（以下、二次部門）の2つに分断されているという“労働市場の二重構造”という概念を用いたい。

　“労働市場の二重構造”について、日本の所得と富の分配（石川他, 1994）の第６章「労働市場の二重構造」では、第一次労働市場（以下、一次部門）とは“仕事に学習や訓練の機会が多く存在し、かつ雇用調整や賃金体系につき確立した規則や慣行が存在する”（石川他, 1994, p169）としている。また、第二次労働市場（以下、二次部門）は“仕事に学習機会は乏しく（しばしば「行き止まりの仕事」といわれる。）労働者は市場の需要の変動に直接さらされることになる”（石川他, 1994, p169）とされる。前者は正規雇用などの教育や経験に対して高い報酬を得ることが出来るため一般的に比較的高賃金なものとし、後者はパートタイム労働や非正規労働などの教育や経験に対して報酬の増加はわずかで、一般的に比較的低賃金なものと定義出来る。

　労働省が1980年と1990年各7月に実施した「賃金構造基本統計調査」のデータを用いた石川氏の研究では、一次部門と二次部門で学歴や勤続年数、外部経験によって得られる収益率は異なり、日本の労働市場は一つのものとして捉えるのは難しく、異なる二つのものだと考えられると結果が提示されている。その上で、企業規模感や男女間での賃金格差が存在するとされる。

　2000年代においても一次部門と二次部門が存在していると仮定した場合、どのような労働市場構造となり、どこに賃金格差が存在しているのか、検討していきたい。

## **1.2 先行研究検討**

　『労働市場の二重研究』（石川他、1994）では、企業規模間および男女間の賃金格差、および労働市場における一次部門、二次部門の相対的な大きさを算出し、その要因を検討している。労働省が1980年と1990年各7月に実施した「賃金構造基本統計調査」のデータを用いたスイッチング回帰分析による実証分析を行い、それぞれを明らかにしている。その結果より、一次部門と二次部門で学歴や勤続年数、外部経験によって得られる収益率は異なり、日本の労働市場は一つのものとして捉えるのは難しく、異なる二つのものだと考えられるとしている。企業規模間格差については、大企業（従業員1000人以上）と小企業（100人未満）の時間当たり賃金は40%近い格差が存在するとし、そのうちの20%は性別や学歴、勤続年数の差によるものであった。男女間格差については、女性はまず一次部門に属する割合が男性よりも格段に少ないことがわかった。また、男性に比べ勤続年数や外部経験への報酬が、年齢が高くなると共にますます減少するため、賃金構造では大きなギャップを持っていた。

　『仕事の経済学』（小池、2005）では、年齢別賃金の推移を職業分類（ホワイトカラー、ブルーカラー）、産業、企業規模を元に分類し、その結果を元に労働者を3つのグループに大まかに析出している。一つ目の「右上がりグループ」は、大企業男性ブルーカラーと規模を問わない男性ホワイトカラーが分類される。二つ目の「ゆるやかなグループ」は30歳代以降賃金カーブがゆるやかで、中小企業男性ブルーカラーがここに属する。三つ目の「よこばいグループ」は、30歳以降賃金が上がらない、非熟練労働者層がここに属する。この結果に基づき、「右上がりグループ」を次のように区分し、労働者全体の中でどれほどの割合を持つのかを検証している。区分の手段として、まず、雇用労働者の中から「正規従業員」をとり、「専門職技術職」男女計、管理職男女計、事務職男性、販売職男性、それ以外の男性正規従業員の21.9%が「右上がりグループ」となる。21.9%という数字は、全体の中で企業規模500人以上の企業に属する雇用労働者の割合を示す。小池氏の算出によると、1982年以降1997年までは35%でほぼ横ばい、そのあと2002年に32%に減少した。この減少は、パートやアルバイト、フリーターといった非正規雇用者の増大によるものだと考えられると述べられている。

## **1.3 リサーチクエスチョン**

本研究のリサーチクエスチョンは大きく二つある。一つ目は「労働市場の二重構造の一次部門と二次部門がどのように構成されているのか」、二つ目は「一次部門と二次部門の賃金構造と各要因の影響とは」である。

## **1.4 本稿の意義**

　本稿では、1992年、1997年、2002年、2007年の4年分のデータを用いて、各年代で検証、及び比較をしていく。まず初めに、『仕事の経済学』（小池、2005）にて定義された「右上がりグループ」について、各年代の割合を検証する。

次に、『労働市場の二重研究』（石川他、1994）にて検証された労働市場の二重構造、賃金構造および各要因の影響に関して、上記のデータを用いて検証し、その結果を時代背景と重ねて考察する。

　『仕事の経済学』（小池、2005）の中で定義された「右上がりグループ」は、正規雇用労働者であることや教育や経験に対して報酬を得ることが出来る職業についていると考えられることから『労働市場の二重研究』（石川他、1994）の中で定義される労働市場の一次部門に類似したものと考える。そのため『仕事の経済学』（小池、2005）にて定義された「右上がりグループ」を労働市場の一次部門、それ以外を二次部門と定義し、それぞれの賃金構造および各要因の影響を検証していく。

## **1.5 本稿の流れ**

　本稿は以下のように進めていく。第2節ではデータの説明、第3節では『仕事の経済学』（小池、2005）の中で定義された「右上がりグループ」の検証、第4節では『労働市場の二重研究』（石川他、1994）にて検証された労働市場の二重構造、賃金構造および各要因の影響に関して検証し、第5節で結論を述べたい。

# **2：データ・モデルの説明**

## **2.1 データの説明**

## **2.1.1 データの説明**

　総務省統計局よりお借りした就業構造基本調査1992年、1997年2002年、2007年）のデータを用いる。サンプル数が各年代約100万サンプルと大きすぎるため、ランダムサンプリングを行った上で、企業規模10人以上の民間企業に属するサンプルに絞り、各年代約3万サンプルを抽出した。

## **2.1.2 データの標本属性**

　1992年、1997年、2002年、2007年、それぞれのデータの標本属性は表4~7を参照していただきたい。

# **3：「右上がりグループ」の検証**

## **3.1「右上がりグループ」の算出方法**

　『仕事の経済学』（小池、2005）によると「右上がりグループ」には、大企業男性ブルーカラーと規模を問わない男性ホワイトカラーが分類される。「右上がりグループ」の算出方法について小池(2005)は「まず雇用労働者のなかの「正規従業員」をとる。そこからつぎの区分を右上がりグループと想定した。（イ）「専門職技術職」男女計、（ロ）管理職男女計、（ハ）事務職男性、（ニ）販売職男性、（ホ）それ以外の男性正規従業員の21.9%。21.9%という数値は、企業規模500人以上の雇用労働者の割合を示す。」(P.7-8)としている。

本研究でも、小池(2005)の算出方法にならい「右上がりグループ」を算出した。各年全てのデータを対象としている。「右上がりグループ」の対象となる項目の一つである「（ホ）それ以外の男性正規従業員の21.9%。21.9%という数値は、企業規模500人以上の雇用労働者の割合を示す。」（小池,2005）に関して、「企業規模500人以上の雇用労働者の割合」は年によって異なるため、各年割合を算出し、「（ホ）」（小池,2005）の項目に代入、そして「右上がりグループ」の数値に反映している。

## **3.2 「右上がりグループ」の推移と検証**

　就業構造基本調査1992年、1997年2002年、2007年）のデータを用いて算出し、全雇用者における割合を算出した結果以下の通りになった。

表1：全雇用者における「右上がりグループ」の割合

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 1992 | 1997 | 2002 | 2007 |
| 34.8% | 34.5% | 32.1% | 30.7% |

以上の結果より、「仕事の経済学」（小池、2005）で述べられた結果と同じ結果になった。1992年から2007年にかけてゆるやかに減少している。

　『日本社会のしくみ』（小熊,2019）では、小池(2005)の算出方法にならい、就業構造基本調査のデータを用いて1982年から2017年にかけての「右上がりグループ」の割合を算出している。小熊(2019)は就業構造基本調査の概要の数値から算出したものであるのに対し、本検証は同調査の個票データで算出している。上記の結果は小熊(2019)と同じ数値をとっており、先行研究との一致がみられる。

# **4：労働市場の二重構造と賃金構造**

## **4.1 賃金構造の実証分析概要**

　本項では、労働市場を分類した上で、賃金構造について検証していく。検証方法については、「労働市場の二重研究」（石川他、1994）を参照している。ただし、本研究では『仕事の経済学』（小池、2005）で定義された「右上がりグループ」を労働市場の一次部門、それ以外を二次部門と定義し、重回帰分析を用いてそれぞれ実証分析を行う。

## **4.2 一次部門と二次部門の選定**

　一次部門の選定は『仕事の経済学』（小池、2005）の「右上がりグループ」の算出方法にならい、雇用労働者の中から正規従業員をとり、専門職・技術職男女計、管理職男女計、事務職男性、販売職男性、それ以外の職業で企業規模500人以上の企業に属する男性正規従業員に該当するデータを一次部門とする。二次部門は、一次部門に属さないものとする。

　留意点として、一次部門と二次部門の割合が前項で算出した割合とやや異なった数値になっている事をここで述べておきたい。「右上がりグループ」に属する労働者の区分の一つに「それ以外の職業で企業規模500人以上の企業に属する男性正規従業員」がある。前項では割合のみ算出しているが、実証分析を行うために個票ごとに一次部門と二次部門の区別をする必要がある。そのため「それ以外の職業で企業規模500人以上の企業に属する男性正規従業員」を一次部門に含めており、結果として数値がやや異なっている。

## **4.3 モデルの説明**

　本研究では重回帰分析を行う。被説明変数に賃金を置き、どのような要素が賃金に対して影響を与えるのかを検証する。

変数については、表8を参照していただきたい。

<MODEL>

*Y = β0 +β1X1 +β2X2 +β3X3 +β4X4 +β5X5 +β6X6 +β7X7 +β8X8 +β9X9 +β10X10 +β11X11 +β12X12 +β13X13 +β14X14*

Y：賃金

X1：都市圏ダミー（Metro）

X2：大企業ダミー（Large）

X3：小企業ダミー（Small）

X4：女性ダミー（Female）

X5：教育年数（Ed）

X6：外部経験（Exp）＝年齢−教育年数−6−勤続年数

X7：現在勤めている会社での勤続年数（Tenure）

X8：Expの自乗項（Exp^）

X9：FemaleとExpのクロス項（Fexp）

X10：Fexpの自乗項（Fexp^）

X11：Tenureの自乗項（Tenure^）

X12：TenureとFemaleのクロス項（Ftenure）

X13：Ftenureの自乗項（Ftenure^）

X14：60歳以上ダミー（Age60）

## **4.4 推計結果**

　詳しい結果は本巻末に掲載したのでそちらを参照していただきたい。以下表2・3は推計結果の要約である。

表2：推計結果要約(1992,1997)

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 1992 | | 1997 | |
|  | Primary | Secondary | Primary | Secondary |
| (定数) | -392.494\*\*\* | -285.578\*\*\* | -60.529\*\*\* | 163.257\*\*\* |
| Metro | 66.314\*\*\* | 55.909\*\*\* | 61.408\*\*\* | 35.067\*\*\* |
| Large | 71.321\*\*\* | 22.629\*\*\* | 78.415\*\*\* | 16.262\*\*\* |
| Small | -45.984\*\*\* | -10.998\*\*\* | -36.048\*\*\* | -26.618\*\*\* |
| Female | -1.957 | -55.088\*\*\* | 24.167 | -43.518\*\*\* |
| Ed | 42.990\*\*\* | 38.964\*\*\* | 93.428\*\*\* | 29.371\*\*\* |
| Exp | 9.971\*\*\* | 8.978\*\*\* | 10.994\*\*\* | 5.533\*\*\* |
| Tenure | 22.810\*\*\* | 17.013\*\*\* | 22.558\*\*\* | 15.350\*\*\* |
| Exp^ | -.041\* | -.143\*\*\* | -.071\*\*\* | -.100\*\*\* |
| Fexp | -5.318\*\* | -13.512\*\*\* | -6.980\*\*\* | -13.211\*\*\* |
| Fexp^ | .066 | .290\*\*\* | .079 | .276\*\*\* |
| Tenure^ | -.161\*\*\* | -.085\*\*\* | -.144\*\*\* | -.211\*\*\* |
| Ftenure | -10.872\*\*\* | -5.276\*\*\* | -12.125\*\*\* | -3.502\*\*\* |
| Ftenure^ | .151\*\* | .064\* | .205\*\*\* | .105\*\*\* |
| Age60 | -246.896\*\*\* | -94.004\*\*\* | -229.743\*\*\* | -125.516\*\*\* |

Significant 1%\*\*\*,5%\*\*,10%\*

表3：推計結果要約(2002,2007)

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 2002 | | 2007 | |
|  | Primary | Secondary | Primary | Secondary |
| (定数) | -423.988\*\*\* | 50.085\*\*\* | -431.688\*\*\* | 75.865\*\*\* |
| Metro | 68.566\*\*\* | 22.435\*\*\* | 84.962\*\*\* | 24.675\*\*\* |
| Large | 83.982\*\*\* | -3.399 | 81.220\*\*\* | -13.943\*\*\* |
| Small | -53.681\*\*\* | -25.801\*\*\* | -54.285\*\*\* | -24.169\*\*\* |
| Female | 6.454 | -12.295\*\*\* | 9.874 | -14.808\*\*\* |
| Ed | 45.124\*\*\* | 10.708\*\*\* | 44.934\*\*\* | 9.422\*\*\* |
| Exp | 12.038\*\*\* | 6.235\*\*\* | 6.913\*\*\* | 4.729\*\*\* |
| Tenure | 20.615\*\*\* | 17.059\*\*\* | 22.430\*\*\* | 14.485\*\*\* |
| Exp^ | -.125\*\*\* | -.107\*\*\* | .036\* | -.090\*\*\* |
| Fexp | -6.355\*\*\* | -12.611\*\*\* | -1.947 | -10.620\*\*\* |
| Fexp^ | .117\*\* | .252\*\*\* | -.047 | .214\*\*\* |
| Tenure^ | -.126\*\*\* | -.257\*\*\* | -.214\*\*\* | -.204\*\*\* |
| Ftenure | -4.151\*\* | -6.101\*\*\* | -9.941\*\*\* | -5.514\*\*\* |
| Ftenure^ | -.024 | .137\*\*\* | .093\* | .120\*\*\* |
| Age60 | -423.988\*\*\* | -104.028\*\*\* | -171.078\*\*\* | -94.275\*\*\* |

Significant 1%\*\*\*,5%\*\*,10%\*

## **4.5 考察**

　三大都市圏への居住の可否は、両部門のどの年代においても正の値をとった。部門間を比較すると1997年以降は一次部門により大きな影響を与えているが、1992年に限り二次部門により大きな影響を持つ。時代背景から考察すると、1993年のバブル崩壊を機に円高を理由として製造業の海外移転が進んだことが関係を持つと考える。製造業の海外移転により1993年以降は地方の工場の撤退・縮小が増加しており、都市圏への利益の集中が起きたのではないか。また、両部門の値の差が年々拡大している背景として、海外移転が製造業に留まらず、企業の機能部分においても進んだことが考えられる。一次部門と二次部門の都市圏居住可否による賃金格差は、加速していくものだと考える。

　次に、大企業での就業は、1992年、1997年では両部門で正の値をとったが、2002年、2007年では一次部門で正の値、二次部門で負の値をとった。値を見ると、一次部門と二次部門間の値の差は年々拡大している。一方小企業での就業は、どの年代、両部門で負の値をとっている。企業の大小による賃金格差の背景として、1993年のバブル崩壊による景気後退により小企業が減少、および縮小したことが挙げられる。バブル崩壊後は小企業の減少や縮小により大企業に利益が集中し、どちらの部門の労働者も大企業での労働の方がより収入を得られる傾向が進んだと考えられる。

　次に、女性労働者は、どの年代も二次部門の結果のみ有意であり、どの年代でも負の値をとった。1992年から2002年にかけて負の値は小さくなり、2002年から2007年にかけては横ばいである。値の変化を見てみると、1997年から2002年にかけての数値の変化が大きい。標本の属性と照らし合わせると、どの年代においても男女間では男性の賃金が高い傾向が見られるが、1992年から2002年にかけて男女間の差が縮まり、2002年から2007年にかけては再度差がやや広がっていることから、この推計結果と結びつく。この推計結果となった時代背景として、共働き世帯の増加が考えられる。男女共同参画局によると、1997年に共働き世帯が片働き世帯の割合を上回っている。（男女共同参画局 2018）共働き世帯の女性の労働・賃金の詳細まで把握することが出来ないため、この推計結果とどの程度関係を持つのか検討することは難しいが、結婚・出産を経て二次部門にて復帰し、その中である程度の収入を得る女性が増加したのではないかと考える。

　次に、教育年数は、どの年代においても両部門で正の値をとった。どの年代でも一次部門の方がより大きな影響があるが、1997年に大きく差が広がり、2002年でまた差が縮まったものの以前大きな差がある。この背景に、先述したように一次部門で大企業での就業が賃金に大きく正の影響を与える中で、大企業に就業するために大学卒業の必要性が高まったことが考えられる。一方、鈴木(2005)によると1992年をピークに高校卒業者の求人数が減少している。この減少の理由の一つに、大きな採用先であった大企業からの求人が減少したことが挙げられている。より高い賃金を得ることが出来る大企業に就職するために学歴が必要になったことから、結果として教育年数が高いほど大企業に就職出来る可能性が高まり、賃金が高くなると考えられる。

　次に、外部経験と勤続年数は、どの年代においても両部門に正の値をとり、一次部門の値が大きかった。転職が賃金に与える影響を検討する際、人的資本理論とジョブマッチング理論の二つのアプローチが存在する。人的資本理論では、勤続年数が増すにつれてその企業や産業、職種に特殊的なスキル、すなわち人的資本が蓄積されて賃金が高まるというものである。ジョブマッチング理論は、労働者が十分に能力を発揮できるマッチングの良い職場を求めて転職し、その結果労働者の生産性が高まることで賃金が高まるというものである。この二つは互いに他方の可能性を排除するものではなく、同時に考えられるものである。（萩原・照山 2016）

本研究の推計結果では、勤続年数においてもどの年代の両部門で正の値を取っている。そのため、勤続年数が正の値をとる背景に人的資本理論があり、外部経験が正の値をとる背景にジョブマッチング理論があると考えられる。外部経験と勤続年数の値の大小を見てみると、どの年代においても両部門で勤続年数が外部経験よりも大きな正の値をとっている。したがって、この推計結果では、人的資本理論とジョブマッチング理論のどちらも背景として存在するが、勤続年数がより賃金に正の影響を与えると言える。

一方、一次部門と二次部門の間では外部経験と勤続年数共に一次部門の方が正の値が大きかった。外部経験に関しては、転職における賃金の変化は転職理由も一つの要因であるとされ、自発的な転職であると賃金が増加、または増減率が転職しなかった場合と変わらないとされる。（萩原・照山 2016）一次部門の方が大企業に属する労働者が多く、自発的ではない転職（廃業や倒産など）二次部門より少ないと考えられる。そのため、一次部門の労働者の方が自発的な転職が多く二次部門より大きい正の値を取ったのだと考える。一方勤続年数に関しては、一次部門に属する労働者の方が知識や経験を蓄積することが出来るため、勤続年数が高まることによってより賃金も高まるのだと考えられる。

　次に、女性の外部経験はどの年代においても両部門に負の値をとり、大きな差は見られないものの二次部門の方がやや大きな負の値をとる。男女を問わない全体では、外部経験により正の値をもったものの、女性に限ったものでは負の値をとる結果となった。女性は結婚や出産、育児の点から、転職する際に賃金よりも時間の制限が負担にならないことなど働きやすさを選択することが考えられる。そのため、転職しても賃金が上がらない場合も存在し、外部経験が負の値をとったと考える。

　女性の勤続年数は、どの部門の両部門で負の値をとる。2002年では二次部門の方がやや大きな負の値を取ったが、それ以外の年代においては。一次部門の影響が大きい。男女共同参画局によると、女性は出産や子育てに伴い、育休や産休を取得することが男性と比較すると割合が非常に高い。（男女共同参画局 2018）また、産休・育休後も時短勤務や無残業など、労働量の減少が考えられる。全ての女性に当てはまる考察ではないが、数値として負の値となった背景として、出産や子育てに伴う労働量の減少から女性の勤続年数は負の値をとる結果になったのではないかと考える。

　次に、60歳以上であることは、どの年代も両部門に大きな負の影響があり、一次部門の値が大きい。60歳以上の労働者の中には年功序列や役職によって高い賃金を得ているものも多いと考えられるが、65歳以上のいわゆる「定年」になった者の労働は、シルバーワークとなる。シルバーワークは時給制のものもあり、月給制であっても高賃金はあまり見込めない。そのため、大きく負の値をとる結果になったと考えられる。

# **5：結論**

　一次部門と二次部門の賃金格差の背景として、企業規模、教育年数（学歴）が大きな要因と考える。その契機になったのは1993年のバブル崩壊と、1990年代の大学進学率の増加である。1993年のバブル崩壊による景気後退により小企業が減少および縮小したため、大企業に利益が集中し大企業での労働の方がより収入を得られる傾向が出来たと思われる。その結果として大企業に就業する労働者の賃金が大きくなった一方で、小企業に就業する労働者の賃金は落ち込んだ。一次部門に属する部門は大企業で就業し、二次部門に属するものは小企業で就業があり、一次部門と二次部門の賃金格差の要因の一つとなったと考える。企業規模によって賃金の格差が拡大する傾向がある中で、1990年代の大学進学率の増加や1992年以降の高校卒業者の求人数減少により、教育年数（学歴）の低い者の大企業への就職が難しくなった。二つの背景から、教育年数が大きく大企業で就業する一次部門に属する労働者と、教育年数が小さく小企業で就業する二次部門に属する労働者では大きな賃金格差が発生したと考えられる。

# **6：参考文献**

* 厚生労働省　平成24年版厚生労働白書（https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/12/dl/1-05.pdf）令和元年11月9日参照
* 石川経夫・出島敬久、1994、「労働市場の 2 重構造」石川経夫編『日本の所得と富の分配』、P.169-209、東京大学出版会、
* 小池和男、2005、『仕事の経済学』、東洋経済新報社
* 「平成4年就業構造基本調査結果」（総務省統計局）
* 「平成9年就業構造基本調査結果」（総務省統計局）
* 「平成14年就業構造基本調査結果」（総務省統計局）
* 「平成19年就業構造基本調査結果」（総務省統計局）
* 鈴木尚子(2005)「若年者の雇用支援 : 現状と課題」『レファレンス』平成17年９月号、P.5-28、国立国会図書館
* 男女共同参画局「「共同参画」2018年6月号」（http://www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/2018/201806/201806\_02.html）令和元年11月15日参照
* 男女共同参画局「男女共同参画白書」（概要版）平成30年版「第3章　仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）　第1節　仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）をめぐる状況」（http://www.gender.go.jp/about\_danjo/whitepaper/h30/gaiyou/html/honpen/b1\_s03.html）令和2年1月9日参照
* 萩原牧子 ・照山博司 (2016)「転職が賃金に与える短期的・長期的効果 ―転職年齢と転職理由に着目して― 」 、『Works Discussion Paper』、No.16、P.1-20、リクルートワークス研究所
* 小熊英二、2019、『日本社会のしくみ』、講談社

表4：標本の属性(1992)

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | 合計 | 男子 | 女子 |
| 全標本 | | 30647 | 19128 | 11519 |
| 学歴 | 中学卒 | 22.0% | 21.0% | 23.8% |
| 高校卒 | 52.5% | 50.3% | 56.1% |
| 短大・高専卒 | 9.9% | 6.2% | 16.0% |
| 大卒以上 | 15.6% | 22.5% | 4.1% |
| 平均（年） | 12.2 | 12.4 | 11.8 |
| 年齢 | -24歳 | 12.2% | 9.4% | 16.8% |
| 25-34 | 20.6% | 21.5% | 19.2% |
| 35-44 | 25.8% | 26.4% | 24.7% |
| 45-54 | 23.9% | 23.9% | 23.8% |
| 55-64 | 14.1% | 14.9% | 12.7% |
| 65-74 | 3.0% | 3.4% | 2.3% |
| 75- | 0.4% | 0.4% | 0.3% |
| 平均（歳） | 41.4 | 42.1 | 40.2 |
| 勤続年数 | 平均（年） | 12.2 | 14.4 | 8.5 |
| 外部経験 | 平均（年） | 11.3 | 9.5 | 14.1 |
| 地域 | 三大都市圏 | 33.7% | 35.7% | 30.5% |
| 企業規模 | 大（1000人+） | 24.1% | 27.0% | 19.4% |
| 中（100-999） | 31.1% | 31.1% | 31.2% |
| 小（-100） | 44.8% | 42.0% | 49.4% |
| 雇用区分 | 正規 | 78.4% | 86.1% | 65.6% |
| 非正規 | 21.6% | 13.9% | 34.4% |
| 労働市場区分 | 一次部門 | 36.4% | 52.8% | 9.1% |
| 二次部門 | 63.6% | 47.2% | 90.9% |
| 個人所得 | -200万円 | 25.7% | 8.8% | 53.7% |
| 201-399 | 37.0% | 36.1% | 38.4% |
| 400-699 | 26.2% | 38.0% | 6.6% |
| 700-999 | 7.2% | 11.0% | 0.9% |
| 1000- | 4.0% | 6.1% | 0.4% |
| 平均（万円） | 393.5 | 501.3 | 214.5 |

表5：標本の属性(1997)

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | 合計 | 男子 | 女子 |
| 全標本 | | 29830 | 18302 | 11528 |
| 学歴 | 中学卒 | 17.5% | 17.3% | 17.8% |
| 高校卒 | 52.7% | 50.9% | 55.5% |
| 短大・高専卒 | 12.1% | 7.3% | 19.9% |
| 大卒以上 | 17.7% | 24.5% | 6.7% |
| 平均（年） | 12.4 | 12.6 | 12.1 |
| 年齢 | -24歳 | 11.2% | 9.5% | 13.9% |
| 25-34 | 23.3% | 24.5% | 21.3% |
| 35-44 | 22.4% | 23.3% | 21.1% |
| 45-54 | 26.2% | 25.1% | 27.8% |
| 55-64 | 13.6% | 13.8% | 13.3% |
| 65-74 | 3.1% | 3.6% | 2.3% |
| 75- | 0.2% | 0.2% | 0.2% |
| 平均（歳） | 41.2 | 41.5 | 40.8 |
| 勤続年数 | 平均（年） | 12.0 | 14.0 | 8.7 |
| 外部経験 | 平均（年） | 11.1 | 9.1 | 14.2 |
| 地域 | 三大都市圏 | 33.4% | 35.4% | 30.2% |
| 企業規模 | 大（1000人+） | 25.0% | 28.4% | 47.7% |
| 中（100-999） | 32.4% | 32.2% | 32.6% |
| 小（-100） | 42.6% | 39.4% | 19.7% |
| 雇用区分 | 正規 | 81.4% | 92.7% | 63.5% |
| 非正規 | 18.6% | 7.3% | 36.5% |
| 労働市場区分 | 一次部門 | 39.1% | 57.2% | 10.3% |
| 二次部門 | 60.9% | 42.8% | 89.7% |
| 個人所得 | -200万円 | 23.7% | 7.8% | 49.1% |
| 201-399 | 36.8% | 34.7% | 40.2% |
| 400-699 | 27.9% | 39.4% | 9.5% |
| 700-999 | 8.6% | 13.4% | 0.9% |
| 1000- | 3.0% | 4.8% | 0.3% |
| 平均（万円） | 392.6 | 495.9 | 228.6 |

表6：標本の属性(2002)

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | 合計 | 男子 | 女子 |
| 全標本 | | 31813 | 18118 | 13695 |
| 学歴 | 中学卒 | 14.2% | 14.5% | 13.7% |
| 高校卒 | 51.5% | 50.3% | 53.1% |
| 短大・高専卒 | 15.8% | 9.3% | 24.3% |
| 大卒以上 | 18.6% | 25.9% | 8.9% |
| 平均（年） | 12.5 | 12.6 | 12.4 |
| 年齢 | -24歳 | 12.2% | 10.4% | 14.7% |
| 25-34 | 24.2% | 24.9% | 23.2% |
| 35-44 | 21.6% | 22.3% | 20.8% |
| 45-54 | 24.9% | 24.1% | 26.0% |
| 55-64 | 14.0% | 14.8% | 12.9% |
| 65-74 | 2.9% | 3.3% | 2.4% |
| 75- | 0.2% | 0.2% | 0.2% |
| 平均（歳） | 41.3 | 41.6 | 41.0 |
| 勤続年数 | 平均（年） | 10.4 | 12.9 | 7.2 |
| 外部経験 | 平均（年） | 12.1 | 10.0 | 14.8 |
| 地域 | 三大都市圏 | 31.0% | 32.3% | 29.3% |
| 企業規模 | 大（1000人+） | 22.5% | 25.0% | 19.2% |
| 中（100-999） | 33.8% | 33.5% | 34.3% |
| 小（-100） | 43.6% | 41.5% | 46.5% |
| 雇用区分 | 正規 | 68.7% | 85.0% | 47.1% |
| 非正規 | 31.3% | 15.0% | 52.9% |
| 労働市場区分 | 一次部門 | 33.5% | 51.3% | 9.9% |
| 二次部門 | 66.5% | 48.7% | 90.1% |
| 個人所得 | -200万円 | 33.9% | 14.0% | 60.2% |
| 201-399 | 35.2% | 37.7% | 32.0% |
| 400-699 | 22.3% | 34.1% | 6.7% |
| 700-999 | 6.5% | 10.8% | 0.9% |
| 1000- | 2.0% | 3.4% | 0.2% |
| 平均（万円） | 336.3 | 422.5 | 195.8 |

表7：標本の属性(2007)

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | 合計 | 男子 | 女子 |
| 全標本 | | 32117 | 17606 | 14511 |
| 学歴 | 中学卒 | 9.2% | 9.8% | 8.5% |
| 高校卒 | 49.3% | 48.9% | 49.7% |
| 短大・高専卒 | 21.0% | 13.2% | 30.4% |
| 大卒以上 | 20.6% | 28.1% | 11.4% |
| 平均（年） | 13.0 | 13.1 | 12.8 |
| 年齢 | -24歳 | 10.6% | 9.3% | 12.2% |
| 25-34 | 21.5% | 22.0% | 20.9% |
| 35-44 | 22.8% | 22.8% | 22.9% |
| 45-54 | 22.6% | 21.8% | 23.6% |
| 55-64 | 18.5% | 19.7% | 17.1% |
| 65-74 | 3.7% | 4.2% | 3.0% |
| 75- | 0.2% | 0.3% | 0.2% |
| 平均（歳） | 42.4 | 42.9 | 41.7 |
| 勤続年数 | 平均（年） | 10.6 | 13.2 | 7.5 |
| 外部経験 | 平均（年） | 12.9 | 10.8 | 15.5 |
| 地域 | 三大都市圏 | 30.8% | 32.2% | 29.1% |
| 企業規模 | 大（1000人+） | 24.9% | 26.7% | 22.7% |
| 中（100-999） | 33.5% | 33.8% | 33.2% |
| 小（-100） | 41.6% | 39.4% | 44.2% |
| 雇用区分 | 正規 | 63.5% | 80.7% | 42.6% |
| 非正規 | 36.5% | 19.3% | 57.4% |
| 労働市場区分 | 一次部門 | 31.7% | 49.9% | 9.7% |
| 二次部門 | 68.3% | 50.1% | 90.3% |
| 個人所得 | -200万円 | 35.9% | 15.3% | 60.9% |
| 201-399 | 35.7% | 39.2% | 31.5% |
| 400-699 | 20.5% | 31.9% | 6.8% |
| 700-999 | 5.9% | 10.2% | 0.6% |
| 1000- | 2.0% | 3.5% | 0.2% |
| 平均（万円） | 324.4 | 431.8 | 194.0 |

表8：変数の説明

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 変数名 | 説明 | 詳細 |
| Metro | Metroダミー | 1：三大都市圏  0：三大都市圏以外 |
| Large | Largeダミー | 1：大企業  （企業規模500人以上）  0：上記以外 |
| Small | Smallダミー | 1：小企業  （企業規模100人未満）  0：上記以外 |
| Female | Femaleダミー | 1：女性  0：男性 |
| Ed | 教育年数 |  |
| Exp | （年齢−教育年数−6−勤続年数）で定まる外部経験年数 |  |
| Tenure | 現在勤めている会社での勤続年数 |  |
| Exp^ | Expの自乗項 |  |
| Fexp | 女子ダミーとExpのクロス項 |  |
| Fexp^ | 女子ダミーとExp^のクロス項 |  |
| Tenure^ | Tenureの自乗項 |  |
| Ftenure | 女子ダミーとTenureのクロス項 |  |
| Ftenure^ | 女子ダミーとTenure^のクロス項 |  |
| Age60 | 60歳以上の労働者に対するダミー |  |

表9：記述統計量 1992(All)

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 |
| Metro | 30647 | 0 | 1 | .34 | .473 |
| Large | 30647 | 0 | 1 | .24 | .428 |
| Small | 30647 | 0 | 1 | .45 | .497 |
| Female | 30647 | 0 | 1 | .38 | .484 |
| Ed | 30647 | 9 | 16 | 12.16 | 2.202 |
| Exp | 30647 | 0 | 66 | 11.27 | 12.322 |
| Tenure | 30647 | 1 | 69 | 12.19 | 10.159 |
| Exp^ | 30647 | 0 | 4356 | 278.81 | 473.654 |
| Fexp | 30647 | 0 | 66 | 5.31 | 10.175 |
| Fexp^ | 30647 | 0 | 4356 | 131.72 | 329.761 |
| Tenure^ | 30647 | 1 | 4761 | 251.79 | 366.883 |
| Ftenure | 30647 | 0 | 69 | 3.18 | 6.283 |
| Ftenure^ | 30647 | 0 | 4761 | 49.58 | 165.526 |
| Age60 | 30647 | 0 | 1 | .08 | .277 |
| Wage | 30647 | 25 | 1750 | 393.53 | 292.539 |
| 有効なケースの数 (リストごと) | 30647 |  |  |  |  |

表10：記述統計量 1992(Primary)

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 |
| Metro | 11144 | 0 | 1 | .39 | .488 |
| Large | 11144 | 0 | 1 | .44 | .496 |
| Small | 11144 | 0 | 1 | .24 | .427 |
| Female | 11144 | 0 | 1 | .09 | .292 |
| Ed | 11144 | 9 | 16 | 13.20 | 2.170 |
| Exp | 11144 | 0 | 61 | 5.91 | 8.786 |
| Tenure | 11144 | 1 | 50 | 14.47 | 10.275 |
| Exp^ | 11144 | 0 | 3721 | 112.15 | 299.758 |
| Fexp | 11144 | 0 | 49 | .54 | 3.111 |
| Fexp^ | 11144 | 0 | 2401 | 9.97 | 84.624 |
| Tenure^ | 11144 | 1 | 2500 | 315.03 | 368.052 |
| Ftenure | 11144 | 0 | 50 | .85 | 3.640 |
| Ftenure^ | 11144 | 0 | 2500 | 13.98 | 95.969 |
| Age60 | 11144 | 0 | 1 | .03 | .172 |
| Wage | 11144 | 25 | 1750 | 537.70 | 271.522 |
| 有効なケースの数 (リストごと) | 11144 |  |  |  |  |

表11：記述統計量 1992(Secondary)

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 |
| Metro | 19503 | 0 | 1 | .31 | .461 |
| Large | 19503 | 0 | 1 | .13 | .335 |
| Small | 19503 | 0 | 1 | .57 | .496 |
| Female | 19503 | 0 | 1 | .54 | .499 |
| Ed | 19503 | 9 | 16 | 11.56 | 1.988 |
| Exp | 19503 | 0 | 66 | 14.33 | 12.990 |
| Tenure | 19503 | 1 | 69 | 10.89 | 9.858 |
| Exp^ | 19503 | 0 | 4356 | 374.04 | 525.609 |
| Fexp | 19503 | 0 | 66 | 8.03 | 11.695 |
| Fexp^ | 19503 | 0 | 4356 | 201.28 | 391.765 |
| Tenure^ | 19503 | 1 | 4761 | 215.66 | 361.287 |
| Ftenure | 19503 | 0 | 69 | 4.51 | 7.042 |
| Ftenure^ | 19503 | 0 | 4761 | 69.92 | 191.455 |
| Age60 | 19503 | 0 | 1 | .11 | .318 |
| Wage | 19503 | 25 | 1750 | 311.14 | 271.462 |
| 有効なケースの数 (リストごと) | 19503 |  |  |  |  |

表12：記述統計量 1997(All)

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 |
| Metro | 29830 | 0 | 1 | .33 | .471 |
| Large | 29830 | 0 | 1 | .25 | .433 |
| Small | 29830 | 0 | 1 | .43 | .494 |
| Female | 29830 | 0 | 1 | .39 | .487 |
| Ed | 29830 | 1 | 4 | 2.30 | .956 |
| Exp | 29830 | 0 | 61 | 11.07 | 12.297 |
| Tenure | 29830 | 1 | 61 | 11.98 | 10.038 |
| Exp^ | 29830 | 0 | 3721 | 273.72 | 470.246 |
| Fexp | 29830 | 0 | 59 | 5.47 | 10.306 |
| Fexp^ | 29830 | 0 | 3481 | 136.17 | 332.916 |
| Tenure^ | 29830 | 1 | 3721 | 244.38 | 361.050 |
| Ftenure | 29830 | 0 | 60 | 3.37 | 6.410 |
| Ftenure^ | 29830 | 0 | 3600 | 52.45 | 164.324 |
| Age60 | 29830 | 0 | 1 | .08 | .268 |
| Wage | 29830 | 25 | 1750 | 392.60 | 264.531 |
| 有効なケースの数 (リストごと) | 29830 |  |  |  |  |

表13：記述統計量 1997(Primary)

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 |
| Metro | 11653 | 0 | 1 | .39 | .489 |
| Large | 11653 | 0 | 1 | .44 | .497 |
| Small | 11653 | 0 | 1 | .23 | .420 |
| Female | 11653 | 0 | 1 | .10 | .303 |
| Ed | 11653 | 1 | 4 | 2.75 | 1.000 |
| Exp | 11653 | 0 | 58 | 5.78 | 8.608 |
| Tenure | 11653 | 1 | 53 | 14.81 | 10.507 |
| Exp^ | 11653 | 0 | 3364 | 107.49 | 291.141 |
| Fexp | 11653 | 0 | 49 | .69 | 3.529 |
| Fexp^ | 11653 | 0 | 2401 | 12.93 | 95.731 |
| Tenure^ | 11653 | 1 | 2809 | 329.75 | 390.045 |
| Ftenure | 11653 | 0 | 47 | 1.06 | 4.165 |
| Ftenure^ | 11653 | 0 | 2209 | 18.47 | 101.964 |
| Age60 | 11653 | 0 | 1 | .03 | .169 |
| Wage | 11653 | 25 | 1750 | 572.52 | 276.119 |
| 有効なケースの数 (リストごと) | 11653 |  |  |  |  |

表14：記述統計量 1997(Secondary)

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 |
| Metro | 18177 | 0 | 1 | .29 | .456 |
| Large | 18177 | 0 | 1 | .13 | .334 |
| Small | 18177 | 0 | 1 | .55 | .497 |
| Female | 18177 | 0 | 1 | .57 | .495 |
| Ed | 18177 | 1 | 4 | 2.01 | .802 |
| Exp | 18177 | 0 | 61 | 14.46 | 13.084 |
| Tenure | 18177 | 1 | 61 | 10.17 | 9.284 |
| Exp^ | 18177 | 0 | 3721 | 380.29 | 528.670 |
| Fexp | 18177 | 0 | 59 | 8.54 | 11.927 |
| Fexp^ | 18177 | 0 | 3481 | 215.18 | 400.042 |
| Tenure^ | 18177 | 1 | 3721 | 189.66 | 329.751 |
| Ftenure | 18177 | 0 | 60 | 4.85 | 7.120 |
| Ftenure^ | 18177 | 0 | 3600 | 74.23 | 190.878 |
| Age60 | 18177 | 0 | 1 | .11 | .311 |
| Wage | 18177 | 25 | 1750 | 277.25 | 178.620 |
| 有効なケースの数 (リストごと) | 18177 |  |  |  |  |

表15：記述統計量 2002(All)

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 |
| Metro | 31813 | 0 | 1 | .31 | .463 |
| Large | 31813 | 0 | 1 | .23 | .418 |
| Small | 31813 | 0 | 1 | .44 | .496 |
| Female | 31813 | 0 | 1 | .43 | .495 |
| Ed | 31813 | 9 | 16 | 12.63 | 2.115 |
| Exp | 31813 | 0 | 63 | 12.05 | 12.850 |
| Tenure | 31813 | 0 | 63 | 10.44 | 10.633 |
| Exp^ | 31813 | 0 | 3969 | 310.33 | 512.239 |
| Fexp | 31813 | 0 | 62 | 6.37 | 11.053 |
| Fexp^ | 31813 | 0 | 3844 | 162.76 | 373.818 |
| Tenure^ | 31813 | 0 | 3969 | 221.98 | 371.715 |
| Ftenure | 31813 | 0 | 57 | 3.09 | 6.470 |
| Ftenure^ | 31813 | 0 | 3249 | 51.42 | 173.308 |
| Age60 | 31813 | 0 | 1 | .08 | .273 |
| Wage | 31813 | 25 | 1750 | 336.31 | 252.214 |
| 有効なケースの数 (リストごと) | 31813 |  |  |  |  |

表16：記述統計量 2002(Primary)

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 |
| Metro | 10644 | 0 | 1 | .36 | .480 |
| Large | 10644 | 0 | 1 | .39 | .488 |
| Small | 10644 | 0 | 1 | .25 | .431 |
| Female | 10644 | 0 | 1 | .13 | .333 |
| Ed | 10644 | 9 | 16 | 13.60 | 2.058 |
| Exp | 10644 | 0 | 63 | 6.34 | 9.108 |
| Tenure | 10644 | 0 | 54 | 14.69 | 11.291 |
| Exp^ | 10644 | 0 | 3969 | 123.09 | 312.713 |
| Fexp | 10644 | 0 | 51 | .97 | 4.253 |
| Fexp^ | 10644 | 0 | 2601 | 19.03 | 119.118 |
| Tenure^ | 10644 | 0 | 2916 | 343.29 | 416.942 |
| Ftenure | 10644 | 0 | 49 | 1.20 | 4.669 |
| Ftenure^ | 10644 | 0 | 2401 | 23.23 | 128.472 |
| Age60 | 10644 | 0 | 1 | .03 | .172 |
| Wage | 10644 | 25 | 1750 | 542.27 | 274.365 |
| 有効なケースの数 (リストごと) | 10644 |  |  |  |  |

表17：記述統計量 2002(Secondary)

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 |
| Metro | 21169 | 0 | 1 | .29 | .452 |
| Large | 21169 | 0 | 1 | .14 | .348 |
| Small | 21169 | 0 | 1 | .53 | .499 |
| Female | 21169 | 0 | 1 | .58 | .493 |
| Ed | 21169 | 9 | 16 | 12.15 | 1.972 |
| Exp | 21169 | 0 | 62 | 14.92 | 13.482 |
| Tenure | 21169 | 0 | 63 | 8.30 | 9.598 |
| Exp^ | 21169 | 0 | 3844 | 404.48 | 564.507 |
| Fexp | 21169 | 0 | 62 | 9.09 | 12.348 |
| Fexp^ | 21169 | 0 | 3844 | 235.03 | 432.737 |
| Tenure^ | 21169 | 0 | 3969 | 160.99 | 330.339 |
| Ftenure | 21169 | 0 | 57 | 4.04 | 7.017 |
| Ftenure^ | 21169 | 0 | 3249 | 65.60 | 190.367 |
| Age60 | 21169 | 0 | 1 | .11 | .309 |
| Wage | 21169 | 25 | 1750 | 232.75 | 160.298 |
| 有効なケースの数 (リストごと) | 21169 |  |  |  |  |

表18：記述統計量 2007(All)

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 |
| Metro | 32117 | 0 | 1 | .31 | .462 |
| Large | 32117 | 0 | 1 | .25 | .432 |
| Small | 32117 | 0 | 1 | .42 | .493 |
| Female | 32117 | 0 | 1 | .45 | .498 |
| Ed | 32117 | 9 | 18 | 12.99 | 2.061 |
| Exp | 32117 | 0 | 61 | 12.94 | 13.317 |
| Tenure | 32117 | 0 | 60 | 10.62 | 11.041 |
| Exp^ | 32117 | 0 | 3721 | 344.78 | 541.485 |
| Fexp | 32117 | 0 | 60 | 7.03 | 11.570 |
| Fexp^ | 32117 | 0 | 3600 | 183.20 | 400.840 |
| Tenure^ | 32117 | 0 | 3600 | 234.75 | 399.322 |
| Ftenure | 32117 | 0 | 59 | 3.38 | 6.837 |
| Ftenure^ | 32117 | 0 | 3481 | 58.16 | 189.202 |
| Age60 | 32117 | 0 | 1 | .10 | .300 |
| Wage | 32117 | 25 | 1750 | 324.35 | 249.543 |
| 有効なケースの数 (リストごと) | 32117 |  |  |  |  |

表19：記述統計量 2007(Primary)

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 |
| Metro | 10190 | 0 | 1 | .35 | .478 |
| Large | 10190 | 0 | 1 | .40 | .490 |
| Small | 10190 | 0 | 1 | .24 | .429 |
| Female | 10190 | 0 | 1 | .14 | .345 |
| Ed | 10190 | 9 | 18 | 13.93 | 2.036 |
| Exp | 10190 | 0 | 52 | 6.56 | 9.285 |
| Tenure | 10190 | 0 | 60 | 15.41 | 11.806 |
| Exp^ | 10190 | 0 | 2704 | 129.27 | 312.059 |
| Fexp | 10190 | 0 | 44 | 1.13 | 4.618 |
| Fexp^ | 10190 | 0 | 1936 | 22.60 | 126.185 |
| Tenure^ | 10190 | 0 | 3600 | 376.86 | 449.564 |
| Ftenure | 10190 | 0 | 49 | 1.39 | 5.082 |
| Ftenure^ | 10190 | 0 | 2401 | 27.75 | 143.020 |
| Age60 | 10190 | 0 | 1 | .04 | .188 |
| Wage | 10190 | 25 | 1750 | 539.24 | 277.997 |
| 有効なケースの数 (リストごと) | 10190 |  |  |  |  |

表20：記述統計量 2007(Secondary)

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 度数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 |
| Metro | 21927 | 0 | 1 | .29 | .452 |
| Large | 21927 | 0 | 1 | .18 | .383 |
| Small | 21927 | 0 | 1 | .50 | .500 |
| Female | 21927 | 0 | 1 | .60 | .490 |
| Ed | 21927 | 9 | 18 | 12.56 | 1.922 |
| Exp | 21927 | 0 | 61 | 15.90 | 13.857 |
| Tenure | 21927 | 0 | 59 | 8.40 | 9.909 |
| Exp^ | 21927 | 0 | 3721 | 444.93 | 593.804 |
| Fexp | 21927 | 0 | 60 | 9.76 | 12.748 |
| Fexp^ | 21927 | 0 | 3600 | 257.84 | 458.681 |
| Tenure^ | 21927 | 0 | 3481 | 168.71 | 354.822 |
| Ftenure | 21927 | 0 | 59 | 4.30 | 7.333 |
| Ftenure^ | 21927 | 0 | 3481 | 72.29 | 205.668 |
| Age60 | 21927 | 0 | 1 | .13 | .336 |
| Wage | 21927 | 25 | 1750 | 224.49 | 154.485 |
| 有効なケースの数 (リストごと) | 21927 |  |  |  |  |

表21：重回帰分析 1992(All)

・モデルの要約

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | R | R2 乗 | 調整済み R2 乗 | 推定値の標準誤差 |
|  | .716a | .512 | .512 | 204.305 |

・分析結果

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | 非標準化係数 | | 標準化係数 | t 値 | 有意確率 |
| B | 標準誤差 | ベータ |
|  | (定数) | -339.536\*\*\* | 9.854 |  | -34.456 | .000 |
| Metro | 58.971\*\*\* | 2.522 | .095 | 23.380 | .000 |
| Large | 59.508\*\*\* | 3.222 | .087 | 18.468 | .000 |
| Small | -21.413\*\*\* | 2.767 | -.036 | -7.739 | .000 |
| Female | -41.990\*\*\* | 6.021 | -.070 | -6.974 | .000 |
| Ed | 41.319\*\*\* | .630 | .311 | 65.577 | .000 |
| Exp | 9.422\*\*\* | .389 | .397 | 24.238 | .000 |
| Tenure | 20.382\*\*\* | .464 | .708 | 43.888 | .000 |
| Exp^ | -.122\*\*\* | .010 | -.198 | -12.055 | .000 |
| Fexp | -13.431\*\*\* | .588 | -.467 | -22.855 | .000 |
| Fexp^ | .278\*\*\* | .015 | .314 | 18.190 | .000 |
| Tenure^ | -.131\*\*\* | .012 | -.165 | -10.626 | .000 |
| Ftenure | -8.134\*\*\* | .803 | -.175 | -10.132 | .000 |
| Ftenure^ | .114\*\*\* | .024 | .064 | 4.808 | .000 |
| Age60 | -130.872\*\*\* | 6.056 | -.124 | -21.610 | .000 |

a. 従属変数 Wage

Significant 1%\*\*\*,5%\*\*,10%\*

表22：重回帰分析 1992(Primary)

・モデルの説明

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | R | R2 乗 | 調整済み R2 乗 | 推定値の標準誤差 |
|  | .708a | .501 | .500 | 191.916 |

・分析結果

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | 非標準化係数 | | 標準化係数 | t 値 | 有意確率 |
| B | 標準誤差 | ベータ |
|  | (定数) | -392.494\*\*\* | 14.942 |  | -26.267 | .000 |
| Metro | 66.314\*\*\* | 3.814 | .119 | 17.387 | .000 |
| Large | 71.321\*\*\* | 4.333 | .130 | 16.462 | .000 |
| Small | -45.984\*\*\* | 4.976 | -.072 | -9.242 | .000 |
| Female | -1.957 | 13.674 | -.002 | -.143 | .886 |
| Ed | 42.990\*\*\* | .939 | .344 | 45.764 | .000 |
| Exp | 9.971\*\*\* | .619 | .323 | 16.100 | .000 |
| Tenure | 22.810\*\*\* | .678 | .863 | 33.644 | .000 |
| Exp^ | -.041\* | .019 | -.045 | -2.108 | .035 |
| Fexp | -5.318\*\* | 1.968 | -.061 | -2.702 | .007 |
| Fexp^ | .066 | .064 | .021 | 1.021 | .307 |
| Tenure^ | -.161\*\*\* | .019 | -.219 | -8.590 | .000 |
| Ftenure | -10.872\*\*\* | 2.063 | -.146 | -5.270 | .000 |
| Ftenure^ | .151\*\* | .060 | .053 | 2.514 | .012 |
| Age60 | -246.896\*\*\* | 14.556 | -.157 | -16.961 | .000 |
| a. 従属変数 Wage | | | | | | |

Significant 1%\*\*\*,5%\*\*,10%\*

表23：重回帰分析 1992(Secondary)

・モデルの分析

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | R | R2 乗 | 調整済み R2 乗 | 推定値の標準誤差 |
|  | .639a | .409 | .408 | 208.781 |

・分析結果

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | 非標準化係数 | | 標準化係数 | t 値 | 有意確率 |
| B | 標準誤差 | ベータ |
|  | (定数) | -285.578\*\*\* | 13.178 |  | -21.671 | .000 |
| Metro | 55.909\*\*\* | 3.294 | .095 | 16.974 | .000 |
| Large | 22.629\*\*\* | 5.116 | .028 | 4.423 | .000 |
| Small | -10.998\*\*\* | 3.398 | -.020 | -3.237 | .001 |
| Female | -55.088\*\*\* | 7.773 | -.101 | -7.087 | .000 |
| Ed | 38.964\*\*\* | .876 | .285 | 44.495 | .000 |
| Exp | 8.978\*\*\* | .524 | .430 | 17.124 | .000 |
| Tenure | 17.013\*\*\* | .642 | .618 | 26.518 | .000 |
| Exp^ | -.143\*\*\* | .013 | -.277 | -11.158 | .000 |
| Fexp | -13.512\*\*\* | .711 | -.582 | -18.992 | .000 |
| Fexp^ | .290\*\*\* | .018 | .418 | 16.456 | .000 |
| Tenure^ | -.085\*\*\* | .016 | -.113 | -5.199 | .000 |
| Ftenure | -5.276\*\*\* | .955 | -.137 | -5.526 | .000 |
| Ftenure^ | .064\* | .027 | .045 | 2.346 | .019 |
| Age60 | -94.004\*\*\* | 6.929 | -.110 | -13.567 | .000 |

a. 従属変数 Wage

Significant 1%\*\*\*,5%\*\*,10%\*

表24：重回帰分析 1997(All)

・モデルの説明

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | R | R2 乗 | 調整済み R2 乗 | 推定値の標準誤差 |
|  | .760a | .578 | .578 | 171.943 |

・分析結果

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 非標準化係数 | | 標準化係数 | t 値 | 有意確率 |
| B | 標準誤差 | ベータ |
| (定数) | 24.844\*\*\* | 5.257 |  | 4.726 | .000 |
| Metro | 45.268\*\*\* | 2.164 | .081 | 20.916 | .000 |
| Large | 77.114\*\*\* | 2.702 | .126 | 28.540 | .000 |
| Small | -36.498\*\*\* | 2.369 | -.068 | -15.405 | .000 |
| Female | -47.705\*\*\* | 5.243 | -.088 | -9.098 | .000 |
| Ed | 76.535\*\*\* | 1.226 | .276 | 62.402 | .000 |
| Exp | 6.337\*\*\* | .339 | .295 | 18.707 | .000 |
| Tenure | 21.545\*\*\* | .421 | .818 | 51.149 | .000 |
| Exp^ | -.057\*\*\* | .009 | -.101 | -6.391 | .000 |
| Fexp | -13.187\*\*\* | .507 | -.514 | -26.034 | .000 |
| Fexp^ | .276\*\*\* | .013 | .347 | 20.853 | .000 |
| Tenure^ | -.212\*\*\* | .011 | -.290 | -18.910 | .000 |
| Ftenure | -7.806\*\*\* | .730 | -.189 | -10.696 | .000 |
| Ftenure^ | .123\*\*\* | .022 | .077 | 5.602 | .000 |
| Age60 | -194.520\*\*\* | 5.349 | -.197 | -36.367 | .000 |
| a. 従属変数 Wage | | | | | |

Significant 1%\*\*\*,5%\*\*,10%\*

表25：重回帰分析 1997(Primary)

・モデルの要約

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | R | R2 乗 | 調整済み R2 乗 | 推定値の標準誤差 |
|  | .706a | .499 | .498 | 195.552 |

・分析結果

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | 非標準化係数 | | 標準化係数 | t 値 | 有意確率 |
| B | 標準誤差 | ベータ |
|  | (定数) | -60.529\*\*\* | 9.006 |  | -6.721 | .000 |
| Metro | 61.408\*\*\* | 3.786 | .109 | 16.218 | .000 |
| Large | 78.415\*\*\* | 4.283 | .141 | 18.309 | .000 |
| Small | -36.048\*\*\* | 5.029 | -.055 | -7.168 | .000 |
| Female | 24.167 | 14.785 | .026 | 1.635 | .102 |
| Ed | 93.428\*\*\* | 1.992 | .338 | 46.892 | .000 |
| Exp | 10.994\*\*\* | .620 | .343 | 17.745 | .000 |
| Tenure | 22.558\*\*\* | .681 | .858 | 33.111 | .000 |
| Exp^ | -.071\*\*\* | .019 | -.075 | -3.671 | .000 |
| Fexp | -6.980\*\*\* | 1.829 | -.089 | -3.817 | .000 |
| Fexp^ | .079 | .059 | .027 | 1.321 | .186 |
| Tenure^ | -.144\*\*\* | .018 | -.203 | -7.907 | .000 |
| Ftenure | -12.125\*\*\* | 2.284 | -.183 | -5.308 | .000 |
| Ftenure^ | .205\*\*\* | .071 | .076 | 2.871 | .004 |
| Age60 | -229.743\*\*\* | 14.262 | -.140 | -16.109 | .000 |
| a. 従属変数 Wage | | | | | | |

Significant 1%\*\*\*,5%\*\*,10%\*

表26：重回帰分析 1997(Secondary)

・モデルの説明

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| R | R2 乗 | 調整済み R2 乗 | 推定値の標準誤差 |
| .649a | .421 | .420 | 136.009 |

・分析結果

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 非標準化係数 | | 標準化係数 | t 値 | 有意確率 |
| B | 標準誤差 | ベータ |
| (定数) | 163.257\*\*\* | 5.737 |  | 28.455 | .000 |
| Metro | 35.067\*\*\* | 2.255 | .090 | 15.551 | .000 |
| Large | 16.262\*\*\* | 3.459 | .030 | 4.702 | .000 |
| Small | -26.618\*\*\* | 2.270 | -.074 | -11.727 | .000 |
| Female | -43.518\*\*\* | 5.170 | -.121 | -8.417 | .000 |
| Ed | 29.371\*\*\* | 1.496 | .132 | 19.638 | .000 |
| Exp | 5.533\*\*\* | .367 | .405 | 15.093 | .000 |
| Tenure | 15.350\*\*\* | .483 | .798 | 31.809 | .000 |
| Exp^ | -.100\*\*\* | .009 | -.296 | -11.146 | .000 |
| Fexp | -13.211\*\*\* | .485 | -.882 | -27.254 | .000 |
| Fexp^ | .276\*\*\* | .012 | .619 | 23.065 | .000 |
| Tenure^ | -.211\*\*\* | .013 | -.389 | -16.591 | .000 |
| Ftenure | -3.502\*\*\* | .692 | -.140 | -5.060 | .000 |
| Ftenure^ | .105\*\*\* | .020 | .113 | 5.212 | .000 |
| Age60 | -125.516\*\*\* | 4.810 | -.219 | -26.095 | .000 |
| a. 従属変数 Wage | | | | | |

Significant 1%\*\*\*,5%\*\*,10%\*

表27：重回帰分析 2002(All)

・モデルの説明

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| R | R2 乗 | 調整済み R2 乗 | 推定値の標準誤差 |
| .758a | .574 | .574 | 164.568 |

・分析結果

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | 非標準化係数 | | 標準化係数 | t 値 | 有意確率 |
| B | 標準誤差 | ベータ |
|  | (定数) | -210.721\*\*\* | 7.897 |  | -26.683 | .000 |
| Metro | 39.141\*\*\* | 2.040 | .072 | 19.184 | .000 |
| Large | 61.594\*\*\* | 2.544 | .102 | 24.209 | .000 |
| Small | -39.451\*\*\* | 2.158 | -.078 | -18.282 | .000 |
| Female | -36.720\*\*\* | 4.280 | -.072 | -8.579 | .000 |
| Ed | 30.963\*\*\* | .508 | .260 | 61.001 | .000 |
| Exp | 6.592\*\*\* | .317 | .336 | 20.817 | .000 |
| Tenure | 22.371\*\*\* | .345 | .943 | 64.794 | .000 |
| Exp^ | -.072\*\*\* | .008 | -.146 | -9.056 | .000 |
| Fexp | -12.473\*\*\* | .456 | -.547 | -27.369 | .000 |
| Fexp^ | .257\*\*\* | .011 | .381 | 22.755 | .000 |
| Tenure^ | -.253\*\*\* | .009 | -.373 | -27.186 | .000 |
| Ftenure | -9.309\*\*\* | .565 | -.239 | -16.462 | .000 |
| Ftenure^ | .144\*\*\* | .017 | .099 | 8.252 | .000 |
| Age60 | -155.469\*\*\* | 4.798 | -.168 | -32.405 | .000 |
| a. 従属変数 Wage | | | | | | |

Significant 1%\*\*\*,5%\*\*,10%\*

表28：重回帰分析 2002(Primary)

・モデルの説明

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| R | R2 乗 | 調整済み R2 乗 | 推定値の標準誤差 |
| .695a | .483 | .483 | 197.329 |

・分析結果

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | 非標準化係数 | | 標準化係数 | t 値 | 有意確率 |
| B | 標準誤差 | ベータ |
|  | (定数) | -423.988\*\*\* | 16.373 |  | -25.896 | .000 |
| Metro | 68.566\*\*\* | 4.075 | .120 | 16.824 | .000 |
| Large | 83.982\*\*\* | 4.555 | .150 | 18.437 | .000 |
| Small | -53.681\*\*\* | 5.105 | -.084 | -10.514 | .000 |
| Female | 6.454 | 12.684 | .008 | .509 | .611 |
| Ed | 45.124\*\*\* | 1.018 | .339 | 44.323 | .000 |
| Exp | 12.038\*\*\* | .662 | .400 | 18.181 | .000 |
| Tenure | 20.615\*\*\* | .636 | .848 | 32.396 | .000 |
| Exp^ | -.125\*\*\* | .020 | -.142 | -6.324 | .000 |
| Fexp | -6.355\*\*\* | 1.710 | -.099 | -3.716 | .000 |
| Fexp^ | .117\*\* | .053 | .051 | 2.206 | .027 |
| Tenure^ | -.126\*\*\* | .017 | -.191 | -7.473 | .000 |
| Ftenure | -4.151\*\* | 1.781 | -.071 | -2.331 | .020 |
| Ftenure^ | -.024 | .053 | -.011 | -.453 | .650 |
| Age60 | -121.987\*\*\* | 14.146 | -.077 | -8.624 | .000 |
| a. 従属変数 Wage | | | | | | |

Significant 1%\*\*\*,5%\*\*,10%\*

表29：重回帰分析 2002(Secondary)

・モデルの説明

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| R | R2 乗 | 調整済み R2 乗 | 推定値の標準誤差 |
| .665a | .442 | .442 | 119.741 |

・分析結果

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | 非標準化係数 | | 標準化係数 | t 値 | 有意確率 |
| B | 標準誤差 | ベータ |
|  | (定数) | 50.085\*\*\* | 7.338 |  | 6.826 | .000 |
| Metro | 22.435\*\*\* | 1.858 | .063 | 12.075 | .000 |
| Large | -3.399 | 2.679 | -.007 | -1.269 | .204 |
| Small | -25.801\*\*\* | 1.852 | -.080 | -13.930 | .000 |
| Female | -12.295\*\*\* | 3.712 | -.038 | -3.313 | .001 |
| Ed | 10.708\*\*\* | .491 | .132 | 21.800 | .000 |
| Exp | 6.235\*\*\* | .299 | .524 | 20.828 | .000 |
| Tenure | 17.059\*\*\* | .349 | 1.021 | 48.950 | .000 |
| Exp^ | -.107\*\*\* | .007 | -.378 | -15.146 | .000 |
| Fexp | -12.611\*\*\* | .391 | -.971 | -32.249 | .000 |
| Fexp^ | .252\*\*\* | .009 | .679 | 27.115 | .000 |
| Tenure^ | -.257\*\*\* | .009 | -.529 | -27.470 | .000 |
| Ftenure | -6.101\*\*\* | .490 | -.267 | -12.450 | .000 |
| Ftenure^ | .137\*\*\* | .015 | .162 | 9.197 | .000 |
| Age60 | -104.028\*\*\* | 3.927 | -.200 | -26.493 | .000 |
| a. 従属変数 Wage | | | | | | |

Significant 1%\*\*\*,5%\*\*,10%\*

表30：重回帰分析 2007(All)

・モデルの説明

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| R | R2 乗 | 調整済み R2 乗 | 推定値の標準誤差 |
| .740a | .548 | .548 | 167.843 |

・分析結果

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | 非標準化係数 | | 標準化係数 | t 値 | 有意確率 |
| B | 標準誤差 | ベータ |
|  | (定数) | -195.530\*\*\* | 8.129 |  | -24.052 | .000 |
| Metro | 47.508\*\*\* | 2.073 | .088 | 22.915 | .000 |
| Large | 47.813\*\*\* | 2.506 | .083 | 19.083 | .000 |
| Small | -36.467\*\*\* | 2.205 | -.072 | -16.538 | .000 |
| Female | -41.430\*\*\* | 4.507 | -.083 | -9.193 | .000 |
| Ed | 29.783\*\*\* | .514 | .246 | 57.922 | .000 |
| Exp | 3.974\*\*\* | .326 | .212 | 12.197 | .000 |
| Tenure | 22.420\*\*\* | .341 | .992 | 65.807 | .000 |
| Exp^ | -.031\*\*\* | .008 | -.068 | -3.919 | .000 |
| Fexp | -9.527\*\*\* | .460 | -.442 | -20.708 | .000 |
| Fexp^ | .197\*\*\* | .011 | .317 | 17.806 | .000 |
| Tenure^ | -.282\*\*\* | .009 | -.451 | -31.853 | .000 |
| Ftenure | -11.259\*\*\* | .551 | -.309 | -20.420 | .000 |
| Ftenure^ | .194\*\*\* | .016 | .147 | 11.750 | .000 |
| Age60 | -148.475\*\*\* | 4.499 | -.179 | -33.004 | .000 |
| a. 従属変数 Wage | | | | | | |

Significant 1%\*\*\*,5%\*\*,10%\*

表31：重回帰分析 2007(Primary)

・モデルの説明

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| R | R2 乗 | 調整済み R2 乗 | 推定値の標準誤差 |
| .676a | .458 | .457 | 204.871 |

・分析結果

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | 非標準化係数 | | 標準化係数 | t 値 | 有意確率 |
| B | 標準誤差 | ベータ |
|  | (定数) | -431.688\*\*\* | 17.548 |  | -24.601 | .000 |
| Metro | 84.962\*\*\* | 4.348 | .146 | 19.538 | .000 |
| Large | 81.220\*\*\* | 4.833 | .143 | 16.807 | .000 |
| Small | -54.285\*\*\* | 5.430 | -.084 | -9.998 | .000 |
| Female | 9.874 | 13.566 | .012 | .728 | .467 |
| Ed | 44.934\*\*\* | 1.077 | .329 | 41.736 | .000 |
| Exp | 6.913\*\*\* | .715 | .231 | 9.666 | .000 |
| Tenure | 22.430\*\*\* | .649 | .953 | 34.564 | .000 |
| Exp^ | .036\* | .021 | .040 | 1.674 | .094 |
| Fexp | -1.947 | 1.811 | -.032 | -1.075 | .282 |
| Fexp^ | -.047 | .057 | -.021 | -.825 | .410 |
| Tenure^ | -.214\*\*\* | .017 | -.346 | -12.935 | .000 |
| Ftenure | -9.941\*\*\* | 1.766 | -.182 | -5.628 | .000 |
| Ftenure^ | .093\* | .052 | .048 | 1.803 | .071 |
| Age60 | -171.078\*\*\* | 13.458 | -.116 | -12.712 | .000 |
| a. 従属変数 Wage | | | | | | |

Significant 1%\*\*\*,5%\*\*,10%\*

表32：重回帰分析 2007(Secondary)

・モデルの説明

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| R | R2 乗 | 調整済み R2 乗 | 推定値の標準誤差 |
| .628a | .394 | .394 | 120.257 |

・分析結果

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | 非標準化係数 | | 標準化係数 | t 値 | 有意確率 |
| B | 標準誤差 | ベータ |
|  | (定数) | 75.865\*\*\* | 7.343 |  | 10.332 | .000 |
| Metro | 24.675\*\*\* | 1.829 | .072 | 13.489 | .000 |
| Large | -13.943\*\*\* | 2.432 | -.035 | -5.734 | .000 |
| Small | -24.169\*\*\* | 1.848 | -.078 | -13.075 | .000 |
| Female | -14.808\*\*\* | 3.830 | -.047 | -3.866 | .000 |
| Ed | 9.422\*\*\* | .481 | .117 | 19.580 | .000 |
| Exp | 4.729\*\*\* | .301 | .424 | 15.727 | .000 |
| Tenure | 14.485\*\*\* | .337 | .929 | 42.922 | .000 |
| Exp^ | -.090\*\*\* | .007 | -.345 | -12.798 | .000 |
| Fexp | -10.620\*\*\* | .388 | -.876 | -27.372 | .000 |
| Fexp^ | .214\*\*\* | .009 | .634 | 23.846 | .000 |
| Tenure^ | -.204\*\*\* | .009 | -.469 | -23.595 | .000 |
| Ftenure | -5.514\*\*\* | .470 | -.262 | -11.724 | .000 |
| Ftenure^ | .120\*\*\* | .014 | .159 | 8.707 | .000 |
| Age60 | -94.275\*\*\* | 3.637 | -.205 | -25.925 | .000 |
| a. 従属変数 Wage | | | | | | |

Significant 1%\*\*\*,5%\*\*,10%\*